

今まででできなかったことをして、生まれ変わるチャンスがもらえる。

文・イラスト

中谷彰宏

text & illustration by Akihiro Nakatani

「自 粛明けに、お客様が戻るかどうか、心配です」

と、飲食店の経営者に相談されました。

たしかに、自粛が明けても、すぐ戻る業態と、戻るまでに時間がかかる業態があります。

飲食業は、戻りにくい業態かもしれません。

さらに、ワクチンや治療薬が開発されるまでは、席の定数を半分にしなければならぬとなると、固定費が大きい薄利の飲食業は、売上げ減＝赤字ということとなります。

自治体からの協力金では、焼け石に水です。

自粛は、自分と向き合う時間です。難しい状況の中で、方法は2つあります。

店を閉めるか、それでも続けるか。



選択は、自分でできます。

そこまですべて、飲食店にはこだわらないので、別の業態に替えるという手も、ひとつの判断です。

そんな難しい状況でも、店を続けるというのも、一つの判断です。

どちらを選んでも、第三者の目気にする必要はありません。

正直な所、前から閉めようと思っていたけど、キツカケがなかったという人もいます。

自粛は、キツカケをくれているので、借金をしてでも続けたい仕事かどうかの選択ができるのです。

「楽だから、やっていた」「儲かるから、やっていた」という判断も、個人個人の価値基準なので、多様性です。

飲食業は、そもそも効率が悪く、薄利なのです。

景気や感染症という環境リスクも大きいのは、最初からわかっています。そんな中で、元気な飲食業経営者もいます。

「自粛で、良かったこと」を、リストアップしてみましよう。

(1) できなくなってみて、要らないものがあることに気づいた。

(2) モチベーションが下がっているスタッフに、やめてもらうキツカケが

できた。

(3) 安いというだけで来てくれていたわけではないお客様が残った。

(4) 前からやめたいと思っていたサービスを、やめるキツカケができた。

(5) 前から始めたいと思っていたサービスを、始めるキツカケができた。

自粛期間は、ふだんできないことができるチャンスなのです。

飲食店に限らず、経営は昨日と同じことをやっていたのでは、事件が起こらなくても継続できません。

ウイルスが進化するように、人間も進化することが可能です。

あらゆる事件は、昨日までの自分から、生まれ変わるチャンスなのです。

Profile

1959年生まれ。主な著作に『グズグズしない人の61の習慣』『50代がもっともっと楽しくなる方法』『頑張らない人は、うまくいく。』他1000冊を越す。

【中谷塾】で講演活動を行う。詳しくは、HPで。
<https://an-web.com/>

